

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 湯川 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、数学）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- 教科に関する調査（国語、数学）

教科に関する調査（国語、数学）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- 生徒質問調査

生徒質問調査	
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	

3. 教科に関する調査結果の概要

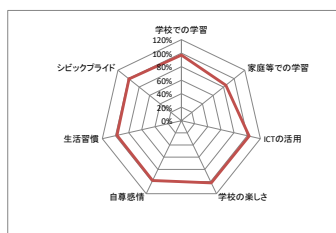
- 全国・本市の学力調査（国語、数学）の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.5	57	7.8	49
全国	8.7	58	8.4	53

- 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて解釈する力が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する問題	
	努力が必要な問題	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	複数の集団のデータや関数を表すグラフから事象を数的に解釈する力が高い傾向にある。また、図形と関連付いた問題は正答率が低い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、－5を入れたとき、その和である□に入れる整数を求める問題	
	努力が必要な問題	18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
○「授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」では、7.8%全国平均を上回る結果となった。各教科において積極的に活用が進んでいることや、補充学習においてドリルアプリを活用していることなどが成果として現れていると考えられる。	
○「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」では、学習時間1時間以上は、全国平均が63.0%に対して本校は49.3%と13.7%下回る結果であった。家庭学習に取り組み習慣を促すための対策が今後必要であると考ええる。	
○自主的な学習習慣を身に付けられるよう、自学ノート（湯川ノート）に毎日取り組ましているが、今後は計画性をもたせたり、学習のまとめ方を工夫させたりするなど、個に応じた目標設定と取組内容をしっかり考えさせる必要がある。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

- 教科に関する取組

学力向上推進のため、数学と英語に照準を合わせ、生徒同士で教え合う活動を取り入れ、基礎学力の定着を図る補充学習を行う。また、自主学習ノート（湯川ノート）の継続した取組や定期考査前の放課後質問教室の実施などにより、自発的に学習に取り組む習慣を身に付けさせる。そして、学習スタイル「共に高め合う三カ条」を定め、生徒自身が自分の課題に気づき、その課題に主体的に取り組む習慣を身に付けさせる。

- 家庭生活習慣等に関する取組

湯川ノートの内容（質）の向上を目指す。習慣化はもとより、生徒が自らの課題を認識できるようにするため、また、假々がもつ課題に沿った取組となるよう、できるだけ多くの優れたノートにふれる機会を増やす。方策の一つとして、湯川ノート週間中の朝自習において班内でノートを見せ合い、互いに評価する場を設ける。優れたノートの理由を添え、学年全体へ掲示するなどして他者の良い取組を取り込む機会とする。また、放課後の自主学習スペースでの学習や、放課後質問教室に参加することを積極的に促し、他者の学習方法を参考に取組みを習得させ、家庭学習への動機付けとした。